

## 巻 頭 言

北海道支部副支部長 白川 龍生 (北見工業大学)

読者の皆様、こんにちは。2024 (令和 6) 年度より副支部長を拝命しました北見工業大学の白川龍生です。支部機関誌『北海道の雪氷』第 43 号をお届けできることを大変嬉しく思います。北海道支部の研究発表会は、前回の 2023 (令和 5) 年から対面形式による開催が復活しました。今年度は 5 月 31 日と 6 月 1 日の 2 日間開催され、計 32 件の発表が行われました。この件数はコロナ禍になる前の水準に相当します。また、1 日目の終了後には 2019 (令和元) 年以来 5 年ぶりとなる懇親会も開催され、多くの会員が参加し有益な意見交換が行われました。こうした観点からも、ウィズコロナからアフターコロナの段階に入ってきたことを実感したところ です。

さて本誌に収録されたテーマは、雪崩、氷河氷床、雪氷と社会基盤、海氷、雪結晶・ハイドレート、降雪・積雪と多岐にわたり、支部会員の活発な取り組みが掲載されています。学生会員の発表も多数あり、若手研究者ならではの観点も示されるなど、新たな風が吹き込まれました。ぜひ次年度も投稿・発表をお待ちしております。

今年度の研究発表会では、最初のセッションにて雪氷災害調査チームによる 2 件の報告が行われました。2023/24 年冬期は、利尻山、羊蹄山と相次ぎ大規模な雪崩が発生し、バックカントリースキーをしていたパーティーのメンバーが巻き込まれました。命を落とされた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被害に遭われた方にはお見舞い申し上げます。また、調査にご尽力された担当者の皆様、大変お疲れさまでした。雪氷災害調査チームによる調査結果は、本研究発表会や講演会によって情報共有され、雪崩事故への注意喚起や科学的な知識の啓発が行われています。今回の調査報告は、近年各地でみられる雪氷環境の変化が山岳エリアにも及んでいることを示唆するものですが、こういった最新の知見を得る場としても、研究発表会には重要な意義があることをあらためて感じた次第です。今後も多くの会員に研究発表会への参加、および本誌の活用を呼び掛けたいところです。

本誌の後半には、北海道支部の事業報告や事業計画、予算といった支部活動についても収録されています。北海道支部では研究発表会、雪氷災害調査チームによる活動に加え、地域講演会の開催 (2023 年度は 9 月に紋別で開催) やサイエンスパーク (例年 8 月に札幌で開催) への参加の形で、雪氷に関する多様な課題の解決と社会貢献にも努めております。引き続き北海道支部の発展に取り組んで参りますので、皆様からのご支援をお願いいたします。